

平成 21 年 6 月 4 日現在

研究種目：基盤研究 (C)
研究期間：2006～2008
課題番号：18520506
研究課題名 (和文) 19 世紀江戸幕府におけるオランダ語百科事典の翻訳
研究課題名 (英文) Translation of Dutch encyclopedias by the Japanese Shogunate in the 19th century
研究代表者 八百 啓介 (YAO KEISUKE)
公立大学法人北九州大学・文学部・教授
研究者番号：20212269

研究成果の概要：

江戸幕府旧蔵輸入蘭書のデータベースを作成するとともに、19 世紀江戸幕府による『厚生新編』の編纂過程について考察するため、国内各機関に所蔵されている『厚生新編』および『生計纂要』・『蘭畹摘芳』・『榕菴随筆』など関連資料の書誌的比較を行った。また原本とされるショメール『日用百科事典』について『厚生新編』との項目の比較と 18 世紀の他のオランダ語辞典との書誌的比較を行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 年度	600,000	0	600,000
平成 19 年度	500,000	150,000	650,000
平成 20 年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	270,000	1,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世史、蘭学、ショメール、厚生新編、大槻玄沢、宇田川榕菴

1. 研究開始当初の背景

わが国における江戸時代後期の蘭学は、『解体新書』の翻訳に象徴されるごとく、医学とりわけ解剖学を中心として始まった。このような経緯から、従来の蘭学研究は、解剖学・病理学をはじめとする医学・自然科学を中心としており、19 世紀の蘭学の特色については、18 世紀の『解体新書』に象徴される解剖学・病理学などの医学中心から自然科学中

心を経て、幕末期における兵制・技術などの軍事学中心へ変化していったとされている。また 19 世紀に入ると江戸幕府によって蕃書和解御用が設立され『厚生新編』の編纂が始まることにより、蘭学の性格が民間の学問から官学となったとされている。

この『厚生新編』の編纂にあたっては、ショメールの百科事典の翻訳にとどまらず「ケレルク」などの蘭書が原本として用いられていることやショメールの

百科事典自体がこのような他の蘭書を出典としていることが、菅野陽・松田清氏によって指摘され、かつ特定されているが、ショメールの百科事典とそれ以外の蘭書がどのような関係にあり、基本文献として利用されていたのかについては、これまでの輸入蘭書に関する書誌的研究においても、いまだ明らかとはされていない。

また、『厚生新編』の項目がどのような基準で『日用百科事典』の項目を採用したのかについては、いまだ明らかにされておらず、わずかに板沢武雄氏によって「内容はもちろん全部を訳したのではなく、事項を選択して訳したものである。その選択の基準を詳かにしないが実用本位で、我が国民生活に必要なりと認めたものからはじめたもののような（中略）訳した部分を原文と対照して見ると、その事項の全文を訳したものでもない。必要な部分のみを訳している。しかし訳した部分は可成忠実な逐語訳である。」とされ、また杉本つとむ氏によって「細部を重箱の隅をつつくようにみていけば、欠落や省略などもある。しかし全体的にはほんとうによく訳されていて、翻訳はすばらしいできばえである。」¹⁾という説明があるに過ぎず、具体的な分析は行なわれていない。

さらにこれまでの蘭学研究においては、蘭学者の門人関係やその著作についての研究が中心であり、オランダ語原本についての書誌学的研究や原本と翻訳との比較研究は前述の菅野陽氏や松田清氏らわずかな研究者によって行なわれているに過ぎない背景があった。

2. 研究の目的

そこで本研究では、19世紀初期における蘭学の転換点とされる『厚生新編』の編纂に注目し、『厚生新編』と原本である『日用百科事典』との比較分析によって、

- (1) 『厚生新編』とその原本とされるショメール『日用百科事典』それぞれの基本的データとその対応関係
- (2) ショメール『日用百科事典』からどのような項目が選択され、また選択されなかったのか、また原文のどのような箇所がそのまま直訳され、どのような箇所が意識されているのかという翻訳の選択基準
- (3) ショメール『日用百科事典』の翻訳作業と『厚生新編』の成立過程における個々の翻訳者の主体性

(4) わが国最初の百科事典としての『厚生新編』における近代ヨーロッパ生活文化の受容の意義

(5) ショメール『日用百科事典』以外の江戸幕府輸入蘭書のデータベース

(6) ショメール『日用百科事典』とそれ以外に18・19世紀にオランダで出版された事典の書誌的關係と幕府による輸入状況

などを具体的に明らかとすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、以下の作業によって、オランダ側史料と日本側史料との実証的な比較分析と数量的データによる分析という方法により、19世紀における蘭学の基本資料を考察するものである。具体的には

(1) 静岡県立中央図書館葵文庫所蔵『厚生新編』、早稲田大学図書館所蔵『厚生新編』、武田学術財団杏雨書屋所蔵『厚生新編』、宮城県立図書館所蔵『生計纂要』の比較

(2) 国立国会図書館所蔵ショメール『日用百科事典』2冊本(1743年刊)と7冊本(1778年刊)の比較

(3) ショメール『日用百科事典』と『厚生新編』の比較

(4) ショメール『日用百科事典』、ラノウ『コンスト・カビネット(自然史・科学・文化・工芸宝函)』(1719年刊)、ケレルク『スコウトネル・デル・ナチュール(自然の景観)』(1737年刊)、ウオイト『スハットカーメル(医薬宝函)』(1741年刊)の比較

などと、これらの数量的データの集計を行うこととした。

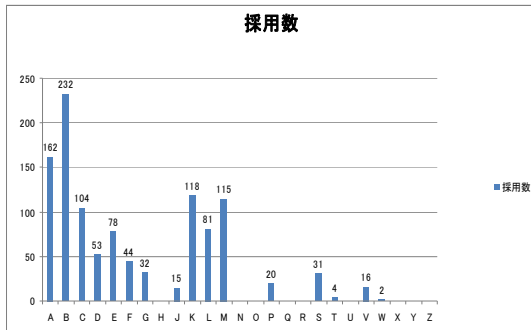
4. 研究成果

(1) 日蘭学会編『江戸幕府旧蔵蘭書総合目録』から収蔵機関別の江戸幕府旧蔵蘭書データベースを作成し、このうち蕃書調所蔵本について静岡県立中央図書館葵文庫所蔵の198冊と国立国会図書館所蔵の291冊の確認と比較を行った。

(2) 国立国会図書館所蔵ショメール『日用百科事典』7冊本(1778年刊)について全冊複写を行い、全項目1万7095項目をデータベースに入力し、『オランダ語辞典』(講談社)による現代語訳と『波留麻和解』(1796年刊)

(ゆまに書房)による『厚生新編』編纂以前の知識との比較を行った。

- (3) 『日用百科事典』の項目 17095 項目のうちCの項目数が 1601 項目と圧倒的に多く、続いてPの 1300 項目、Aの 1293 項目、Sの 1234 項目、Mの 1173 項目と続くことを明らかとした。また『日用百科事典』の項目数に対して『厚生新編』に採用された 1107 項目を見てみると、グラフのようにBの 232 項目が最も多く、続いてAの 162 項目、Kの 118 項目の順となっている。



この『厚生新編』への採用数を『日用百科事典』の項目数と照らし合わせた採用率を見てみると、Bの 32.6%が最も高く、続いてKの 16%、Aの 12.8%となっており、『日用百科事典』の項目数と採用項目数が必ずしも比例していないことを指し、翻訳における恣意的な取捨選択が行われたことを明らかとした。

- (4) 国立国会図書館所蔵ショメール『日用百科事典』2冊本(1743年刊)について全項目を調査し7冊本との比較を行い、どの項目が取捨され追加されたのか、どのように記事が増補されたのかを比較した。
- (5) 静岡県立中央図書館葵文庫所蔵『厚生新編』正編 70冊・続稿 32巻(幕府献上本)と宮城県立図書館所蔵『生計纂要』(仙台藩献上本)、武田学術財団杏雨書屋所蔵『厚生新編』(草稿本)の現地調査を行った。これらと早稲田大学図書館所蔵『厚生新編』(草稿本)(古典籍データベース)との比較を行い、大槻玄沢と宇田川榕菴の翻訳項目について『厚生新編』の成立過程における項目の選択を明らかにした。
- (6) さらに東京国立博物館所蔵『蘭畹摘芳』(筆録本)と『厚生新編』の按文の比較から、大槻玄沢の翻訳の過程における『蘭畹摘芳』『厚生新編』『生計纂要』の成立の順序について考察した。
- (7) オランダ王立図書館・アムステルダム大学図書館においてショメール『日用百科事典』2冊本(1743年刊)、

ラノウ『コンスト・カビネット(自然史・科学・文化・工芸宝函)』全9巻(1719年刊)、ケレルク『スコウトネル・デル・ナチュール(自然の景観)』全14巻(1737年刊)、ウォイト『スハットカーメル(医薬宝函)』全1巻(1741年刊)の一部を撮影し、書誌学的比較を行った。

- (8) さらに武田学術財団杏雨書屋所蔵『ホイス和解』(A・B項目のみ)の調査を行い、その原本である国会図書館所蔵のボイス『科学技術事典』全10巻(1769-78年刊)のA~C項目を複製した。この結果、『厚生新編』が単にショメール『日用百科事典』の翻訳ではなく、これら18世紀におけるオランダ語百科辞典を体系的に再編集しようとしたものであったことを明らかとした。

- (9) ショメール『日用百科事典』7冊本と『厚生新編』全102巻(うち2巻欠)の項目の比較から『厚生新編』の項目数は正編 1192項目・続稿 184項目の合計 1376項目にものぼっていることを明らかとした。また『厚生新編』におけるショメール『日用百科事典』の採用項目は 1107項目であることを明らかとした。この結果と(2)(4)のデータをもとに、『厚生新編』におけるショメール『日用百科事典』7冊本の採用項目について、『日用百科事典』2冊本・『オランダ語辞典』による現代語訳・『波留麻和解』の比較一覧表(A4サイズ 20頁)を作成した。

- (10) この結果、『厚生新編』翻訳に先行する「ウヲールデンプーク」「コンストカビネット」など諸種の蘭書の基本文献の中から「コンストカビネット」に注目し、18・19世紀における蘭学の基本文献であり「ハイス(Buys, *NIEUW EN VOLKOMEN WOORDENBOEK VAN KUNSTEN EN WETENSCHAPPEN*)」「ショメール」と並ぶ「大巻」であった「コンストカビネット」とは、1719年から1723年にかけて出版されたオランダの自然史家ラノウの『*KABINET DER NATUURLYKE HISTORIEN, WETENSCHAPPEN, KONSTEN EN HANDWERKEN*(自然史・科学・文化・工芸宝函)』(全9巻)であったことを明らかとした。

- (11) 江戸幕府による『厚生新編』の編纂は、単にショメールの『日用百科事典』の翻訳にとどまらず、このような対話形式・論文形式・辞書形式にわたる十八世紀輸入オランダ語事典類の

知識を主体的に体系しようとする試みであったことを明らかとした。

(12) 『厚生新編』の中で重要な位置を占める疾病の項目から「相思病(コイノヤマイ)」「飲耽」という二つの心的疾病を取り上げ、その採用の意味について考察するとともに、文化的基盤の相違に起因する道徳的差異の中で、その身体観が江戸時代の封建制社会における儒教的道徳観にどのように変換されていったかを考察し、社会における個人の心性が、身体同様に普遍的なものとして受容され、西洋の近代的身体観が儒教的道徳の文脈へ変換されたことを明らかとした。

(13) 『日用百科事典』の翻訳については、『厚生新編』が当初 A から Z のアルファベット順に翻訳していく方針を原則としながらも、第 39 巻以降の構成に変化が見られる理由として、大槻玄沢から宇田川玄真へと翻訳の担当が移ることで、翻訳の人数と方法が変化し、さらにその方法が玄真から宇田川榕菴にも受け継がれたことを明らかにし

(14) 『厚生新編』の食文化項目においては、前期の中心人物である大槻玄沢が植物と身近な加工品を中心に翻訳し、中期の中心人物である玄真がとりわけ蒸餅類製法と肉料理の翻訳を行ったのに対し、後期の中心人物である宇田川榕菴は前期・中期の特徴をそれぞれ受け継いで植物、加工品、肉料理の翻訳を行っているものの、調理法のみを特記した翻訳方法ではなく、他の枝項目も総合的に翻訳していることを明らかにした。

(15) さらに武田学術財団杏雨書屋所蔵『榕菴随筆』と『厚生新編』飲食項目の比較から宇田川榕菴の食文化への関心について考察した。

(16) 3つの機関に所蔵されている『厚生新編』については、葵文庫所蔵『厚生新編』続稿第 29 巻から続稿第 31 巻が献上本であるのに対し、同じ項目を有する早稲田大学図書館所蔵の A 本は献上のための清書本、それ以外の早稲田大学図書館所蔵 B 本、杏雨書屋所蔵 A・B・C 本は草稿本である可能性を指摘した。また、これらの草稿本の存在から、翻訳されたものの献上本には採録されなかった項目の存在を明らかにし、杏雨書屋所蔵 B 本に記された「飲食」の分析から、榕菴独自の編集が行われており、特に榕菴が抽象的な表現を避け具体的で必要だと判断した記述のみを翻訳したことを明ら

かとした。

(17) 研究分担者は 3 年間の研究の成果に基づき、平成 20 年 12 月北九州市立大学大学院社会システム研究科に以下の内容の学位請求論文『蘭学における食文化研究—『厚生新編』を中心として—』(A4 版 357 頁)を提出し、同 21 年 3 月に博士(学術)の学位を取得した。

序論

第 1 章 江戸時代における西洋食文化

第 2 章 『厚生新編』における「蒲桃酒」項目について

第 3 章 大槻玄沢の西洋食文化研究—『厚生新編』と『蘭畹摘芳』の比較から—

第 4 章 宇田川榕菴の西洋食文化研究

第 5 章 幕末における西洋食文化研究

終論

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

八百啓介、『厚生新編』における心的疾病—「相思病」と「耽飲」—、『北九州市立大学文学部紀要』、第 78 号、頁未定、2009 年(9 月刊行予定)、査読無。

八百啓介、『蘭学における『コンストカビネット』』、『洋学史研究』、第 26 号、27-44 頁、2009 年、査読有。

上野晶子、『宇田川玄真・榕菴の西洋食文化研究』、『一滴』、第 17 号、頁未定、2009 年(10 月刊行予定)、査読無。

上野晶子、『厚生新編』における「蒲桃酒」項目について、『洋学』、第 17 号、頁未定、2009 年(5 月刊行予定)、査読有。

上野晶子、『宇田川榕菴の西洋食文化研究』、『洋学史研究』、第 26 号、45-90 頁、2009 年、査読有。

[学会発表](計 4 件)

上野晶子、『厚生新編』における「蒲桃酒」項目について、洋学史学会・実学資料研究会合同大会、2008 年 3 月 30 日、明治大学。

八百啓介、『The Fundamentally Different Rolls of Linguists in the Ports of Nagasaki and Canton』、International Academic Conference 2007 CANTON AND NAGASAKI COMPARED, 1730-1830、2007 年 12 月 6 日、Institute for Tourism Studies of Macao。

八百啓介、『出島オランダ商館の食糧輸入について』、洋学史研究会新春大会、2007 年 1 月

27日、東京サンルートホテル。
上野晶子「蘭学者と食文化」、洋学史研究会
新春大会、2007年1月27日、東京サンルー
トホテル。

〔その他〕

ホームページなど

[http://homepage3.nifty.com/orandacapitan/
sub2.html](http://homepage3.nifty.com/orandacapitan/sub2.html)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

八百 啓介 (YAO KEISUKE)

公立大学法人北九州市立大学・文学部・教
授

研究者番号:20212269

(2) 研究分担者

上野 晶子 (UENO AKIKO)

北九州市立自然史・歴史博物館・歴史課・
学芸員

研究者番号: 50455565